



小林高校男女駅伝部、男女バスケット部が全国大会へ

～それぞれの目標と抱負を聴く～



11月8日、全国大会出場特別後援会実行委員会では各チームの監督と選手が抱負を述べました

県 大会を勝ち抜き、全国へ挑む小林高校駅伝部男子、女子と男子、女子バスケットボール部。それぞれの監督と主将に意気込みを聞きました。

男子駅伝部 横山美和監督
「今年のチームも入賞を狙える位置にいると思う。応援してくれる皆さんの期待に応えられるよう頑張りたい」
森湧暉主将
「県大会は課題と収穫があった。応援してくれる多くの人に感謝して3位入賞を目指して頑張りたい」
女子駅伝部 小坂康弘監督
「今年も力はあるチーム。」

入賞を目指して頑張ってきたので応援してほしい」
黒木梨乃主将
「目標である8位入賞を目指し、一人一人が強い気持ちをもって臨みたい」
男子バスケットボール部 石川祐二監督
「選手は厳しい練習によくついてきてくれた。目標は最低でもベスト8」
西村昌哉主将
「毎日ハードな練習をし、精神的にも鍛えられた。小林のスタイルで一戦一戦に全てを出し切る」
女子バスケットボール部 西田次良監督
「上位で戦える力がついていて。全員の力を結集し、ベスト4を目標に臨みたい」
楠沙也香主将
「全国ベスト4を目標に、予選での課題を修正するように練習してきた。小林らしく明るく元気に県代表として頑張りたい」
全国大会は男女バスケットボールが12月23日から。駅伝も12月23日号砲。高校生のさわやかな活躍に期待です。



小林市の芸術の祭典 総合文化祭



小 林市は芸術の秋。総合文化祭として様々な催しが開催されました。
10月28日は文化会館で市民音楽祭を開催。30団体、約350人が箏、詩吟、コーラスや民謡など多彩な演目を披露しました。
11月3日から5日にかけては、市民体育館と中央公民館で小林会場作品展を実施しました。作品総数約3,700点を展示。約4,700人が観覧に訪れ、芸術の秋を堪能しました。

- ・ Aクラスの部
… 猿山忠夫
 - ・ Bクラスの部
… 山口秀喜
 - ・ Cクラスの部
… 牛水義則
- また、11月3日と4日は芸術祭を開催。2日間にわたって、フラダンス、クラシックバレエ、日本舞踊、詩吟剣舞や民舞など32団体・200人が出演しました。出演者は、約640人の観客の前で艶やかに、力強く、日頃の練習の成果を発表しました。



みんな一生けん命

須木小学校 須木っ子委員会 委員長 内山嘉希



運動会で発表したマーチング

須木小学校は、山々に囲まれた自然豊かなところにある小学校です。特産として、栗や袖があります。今、小学校でがんばっていることが四つあります。

一つ目は、マーチングです。マーチングは、4・5・6年生が頑張ってきました。運動会での発表を目標に、クラブの時間や夏休みの時間を使って練習したので、運動会当日は大成し終わりました。

二つ目は、リングブルとベクトロボトルのキャップ集めです。これは、毎年全校で取り組んでいて、キャップはワクチンに、リングブルはたくさん集めると車いす一台に換わりまします。リングブルは、三十キににならないと持っていけないのですが、キャップは貯まった分だけ送ることができ、その分ワクチンが早く寄付できるので嬉しです。今年、リングブルは、今年送れなかったけれど、とてもしゃべりやすい友だちが多かったのですぐに慣れました。

このように須木小学校はいろいろな事に頑張り、みんな仲良く楽しい学校なので、僕は大好きです。

三つ目は、朝のボランティア活動です。これは、庭掃除を主にしています。全学年で取り組んでいて、月水金の曜日にやっています。みんな一杯がんばっているの、秋にはたくさん葉っぱが落ちますが、すぐに片付きます。

四つ目は、あいさつです。須木小学校では、須木っ子委員会を中心になって、火曜日にあいさつ運動をしています。そして、一週間の中で一番あいさつが良かった人を選んで表彰しています。また、今年も中学生にもあいさつをするのを頑張っています。

僕は、鳥田町小学校が休校になった四年生から須木小学校に通っています。最初は馴染めなかったけど、とてもしゃべりやすい友だちが多かったのですぐに慣れました。

このように須木小学校はいろいろな事に頑張り、みんな仲良く楽しい学校なので、僕は大好きです。

国際交流『シャネットの徒然なるままに』 WORLD

あばよ

Vol.14



相棒とのコラボ写真です

今 年の夏は死ぬほど暑かったのに、私にとっては、去年の遠い冬の方がはるかに鮮やかな思い出です。あつという間に一年が過ぎて、今年も終わりに近づいています。皆さんはどんな一年を過ごしましたか。

私の一年間は出会いと別れがたくさんありました。ドイツから家族や、友達が来てくれましたし、日本国内の友達も来てくれました。ドイツでは、大切な人と久しぶりに会うと必ず強く抱き合います。ずっとたまたまっていた会いたい気持ちを入れて。両親との再会は結構息苦しかったです。もちろん、家族や友達が会いに来てくれるのはとても嬉しかったです。

- いですが、帰るときは余計に寂しくなります。そして、数日後、いないことをこんな風に気づかされます。
- ①「ただいま〜」「…」「寂しい…」
 - ②「本を読もう。ああ。ママが買ってくれた本だ。寂しい…」
 - ③「久しぶりにコーヒ飲もう。わー、パッケージにママがクリップ付けてくれたんだ。寂しい…」
- 今年が一番つらい別れは、小林で知り合った大好きな相棒との別れでした。彼女はだいたい年下なのに、だいたい年上に見えるそうです。それはきつと、私よりだいたい大人だからというのがあるのではないかと思います。遠く離れている所に生まれ育ったのに、とても気が合って、すぐに友達になりました。ずっと一緒にいたかったです。逢うは別れの始め。仕方ないです。
- ところで、夏にドイツへ帰ったとき、相棒が一人いると、よく「あれ、今日は相棒は」と聞かれたらしいです。嬉しかったです。